

令和4年度 事業報告

1. 事業概要

令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大の波に何度も飲み込まれ、様々な制約を受けながら過ごす1年であった。また、ロシアのウクライナ侵攻による社会情勢不安に加え、諸物価の高騰により市民生活への負担が増すという不安定な状況の中、例年行っている事業に工夫を凝らしながら活動を展開し、普及啓発と地域貢献活動を兼ねた済生会境港総合病院での除草ボランティア作業などに取り組んだ。

一方でコロナとともに社会生活を送ることが切望され、国や自治体主導により人の交流を促す施策が展開されたこともあり、市内では水木しげるロードを訪れた観光客が3年ぶりに100万人を超え、また基幹産業である水産業でも水揚げが4年ぶりに10万トン台に回復するなど明るい兆しは見えたものの、市内の経済状況は依然と厳しく、当センターの運営もその影響を受け、活動の基本方針としている「第2次中期基本計画」の数値目標を達成できなかったものがいくつかあった。

会員数は、全国的な傾向と同様で当センターも減少傾向が続いている。これは、年金支給開始年齢の段階的引き上げに伴う定年延長や再雇用制度の影響が色濃く、60歳代の会員の確保に苦戦し、会員数はこれまでの過去最低であった前年度の会員数をさらに下回り163人となった。粗入会率（当センターの会員数÷本市の60歳以上の人口）は年代別、男女別とも全国平均を大きく下回り、目標に届いていない。

契約金額については、新型コロナウイルス感染症第7波の到来とともに夏場から受注が前の年度を下回りはじめ、これに諸物価の高騰が追い打ちをかけ、受注実績は精彩を欠いた。前年度（令和3年度）は、コロナ禍の影響をまろに受け当センター創成期の頃の平成4年度に次ぐ低調な契約実績の年度であったが、その額を下回る芳しくない状況が年内いっぱい続いた。それでも年末あたりから受注が復調傾向で、最終的に受注件数は前年度より1.8%減の1,831件、契約金額は3.3%増の約5,806万円となった。

派遣事業については、前年度までであった通年ベースの契約がなくなったことから、年度当初より契約実績は伸び悩んだ。年明けから新たな受注はあったものの、前年度の年末期に受注していた複数の契約がなかったことなどが影響し、全体として低空飛行で受注件数は前年度より6.3%減の15件、契約金額は前年度より25.3%減の約520万円となった。

その他、財政の健全化に向けた取り組みとして、これまでも様々な取り組みにより経費節減に努めてきたが、ここ数年、経常費用が経常収益を上回る支出超過（赤字）の状態が続いていた。このため、事務費率を改定するなど次年度以降の財源の確保策を講じた。また、令和5年10月からスタートする消費税の適格請求書等保存方式、いわゆるインボイス制度への対応についても適格請求書発行事業者の登録を済ませ、適正に対応していく準備を整えた。

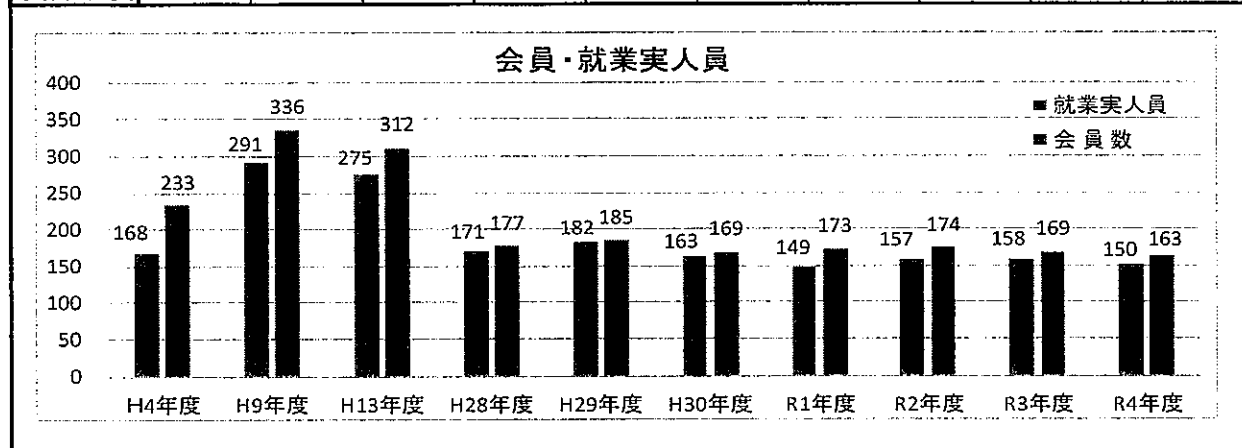
以下、令和4年度の事業実施状況を項目ごとに報告する。

2. 事業実施状況

(1) 事業実績の推移

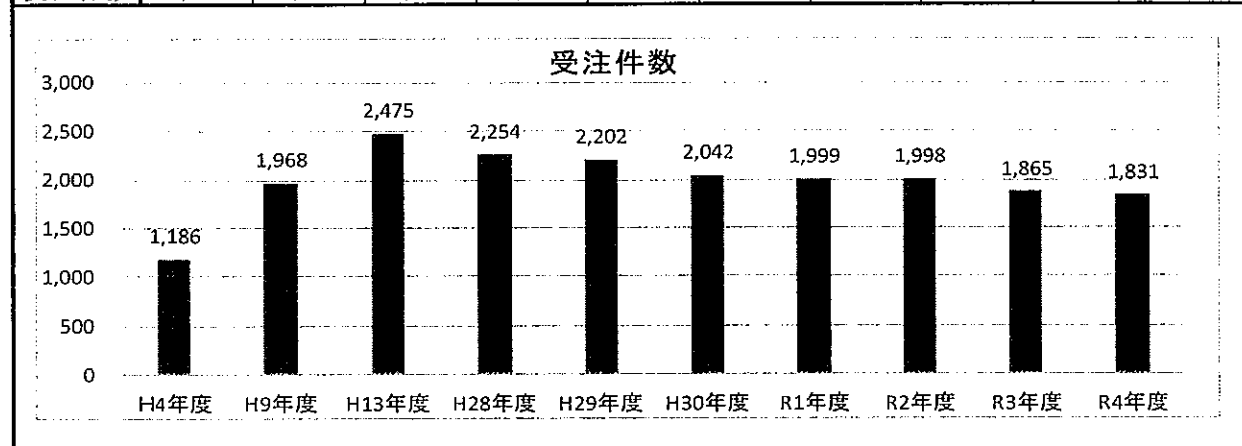
(単位：人)

	H4年度	H9年度	H13年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
会員数	233	336	312	177	185	169	173	174	169	163
就業実人員	168	291	275	171	182	163	149	157	158	150



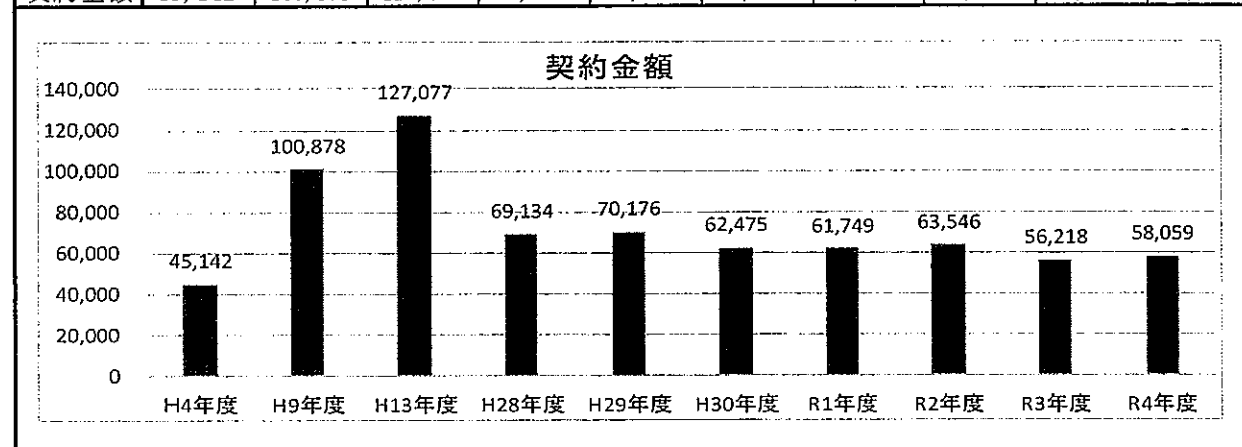
(単位：件)

	H4年度	H9年度	H13年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
受注件数	1,186	1,968	2,475	2,254	2,202	2,042	1,999	1,998	1,865	1,831



(単位：千円)

	H4年度	H9年度	H13年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
契約金額	45,142	100,878	127,077	69,134	70,176	62,475	61,749	63,546	56,218	58,059



(2) 会員数の拡大

当センターの最重要課題であり、鳥取県シルバー人材センター連合会と連携して会員拡大に取り組んだほか、全会員に会員勧誘のチラシを配付し会員の拡大に努めた。

なお、イベント会場などに出向いて行っていた普及啓発活動は、新型コロナウイルス感染防止のため前年度に引き続き実施できなかったが、地域貢献活動として取り組んでいる除草、清掃ボランティアの際、他団体と連携して取り組んだことから、その団体の会員に当センターへの会員募集チラシを配付し勧誘を行った。

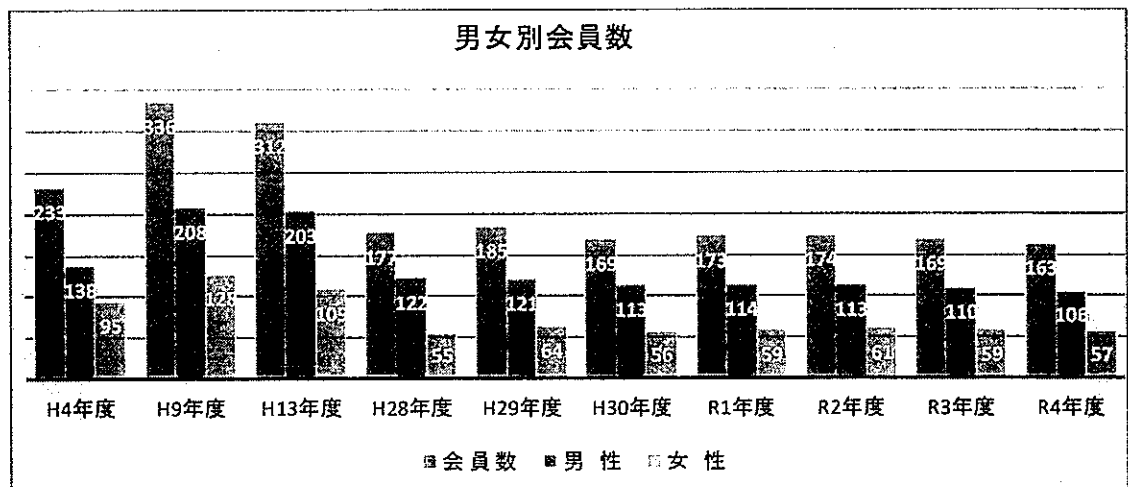
【主な取り組み】

- 県政だよりへの広告掲載<連合会と共同事業> (5月、1月)
- テレビCM放送<連合会と共同事業> (6月から8月、年末年始)
- 剪定技能講習<連合会と共同事業> (6月)
- 商工会議所ニュースへの広告掲載<連合会と共同事業> (6月、1月)
- 60歳からの身だしなみメイクセミナー<連合会と共同事業> (8月)
- ハウスクリーニング講習<連合会と共同事業> (9月)
- 市民図書館及び鳥取県立ハローワークへのチラシの配架 (9月)
- 境港市ことぶきクラブ会員へのチラシの配布 (11月)
- 新聞各紙にチラシの折り込み<連合会と共同事業> (2月、3月)
- 市報にチラシの折り込み (3月)

<会員数の推移>

(単位:人)

	H4年度	H9年度	H13年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
会員数	233	336	312	177	185	169	173	174	169	163
男性	138	208	203	122	121	113	114	113	110	106
女性	95	128	109	55	64	56	59	61	59	57



(3) 就業機会の拡大

会員の就業機会を確保するため市報にチラシを折り込み、周知と紹介に努め、また官公庁や事業所などを訪問し、就業機会の継続・拡大を要望した。また、鳥取県シルバー人材センター連合会と連携し、テレビCM、新聞折込み及び商工会議所ニュースなどにシルバー人材センターを紹介する広告等を掲載した。

年末年始から年度末にかけて新規の業務を複数件受注した。

(主な新規事業)

- レンタル品洗浄、分別及び修理等作業補助
- わかめの茎抜き作業

【主な取り組み】

- 県政だよりへの広告掲載<連合会と共同事業> (5月、1月)
- 商工会議所ニュースへの広告掲載<連合会と共同事業> (6月、1月)
- テレビCM放映<連合会と共同事業> (6月から8月、年末年始)
- 市民図書館及び鳥取県立ハローワークへのチラシの配架 (9月)
- 官公庁訪問 (11月)
- 境港市ことぶきクラブ会員へのチラシの配布 (11月)
- 事業所訪問<連合会と共同事業> (2月)
- 新聞各紙にチラシの折り込み<連合会と共同事業> (2月、3月)
- 市報にチラシの折り込み (3月)

(4) 安全・適正就業の徹底

安全就業について、熱中症対策として事務所に熱中症警戒アラート等の情報を表示、配分金明細書に一口メモを掲載するなどこれまでの取り組みを継続実施し注意喚起を行った。

刈払機による飛石事故対策として、市の業務で通過交通の激しい作業箇所などでの就業を一部見直すなどしたため、多額な賠償案件は減少したが、賠償事故は1件発生した。

また、就業中の会員が、重傷を負う傷害事故が発生し、同じ作業をしている会員には安全就業の徹底を要請し、その他の会員にも配分金明細書の一口メモにより安全就業の徹底を周知した。

新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き事務所に出入りする人への検温や手指消毒等を徹底した。

飲酒運転根絶のためのアルコール検知器によるチェックや目視による確認に取り組んだ。

【主な取り組み】

- 市業務の通過交通の多い道路等の除草作業箇所の一部見直し (4月)

- 熱中症警戒情報を事務所玄関、窓口に掲示して注意喚起（6月～9月）
- 熱中症予防としての注意喚起の一口メモ（7月）
- 安全・適正就業推進委員長、理事長、事務局職員及び連合会の安全・適正就業指導員による安全パトロール（7月、11月）
- 安全・適正就業推進委員会の開催（7月、2月）
- 新型コロナウイルス感染症予防の注意喚起の一口メモ（8月、9月、1月）
- 新型コロナウイルス感染症急拡大による注意喚起のチラシ配付（9月）
- 年末の交通安全運動の一口メモ（12月）
- 事故発生事例の共有化と安全就業徹底の一口メモ（2月）
- 新型コロナウイルス感染予防・拡大防止の徹底（通年）
- 飲酒運転根絶のためのアルコール検知器によるチェックと目視による確認（通年）

< 傷害事故の発生状況 >

業種	発生日	内 容	保険適用
除草	R 4. 7. 7	午前の作業を終え、午後の現場に向かう途中、手足がしびれ動けなくなった。熱中症	有
剪定	R 5. 2. 14	剪定作業中に脚立から転落し、顔面顎下の裂傷、肋骨及び背骨を骨折	有

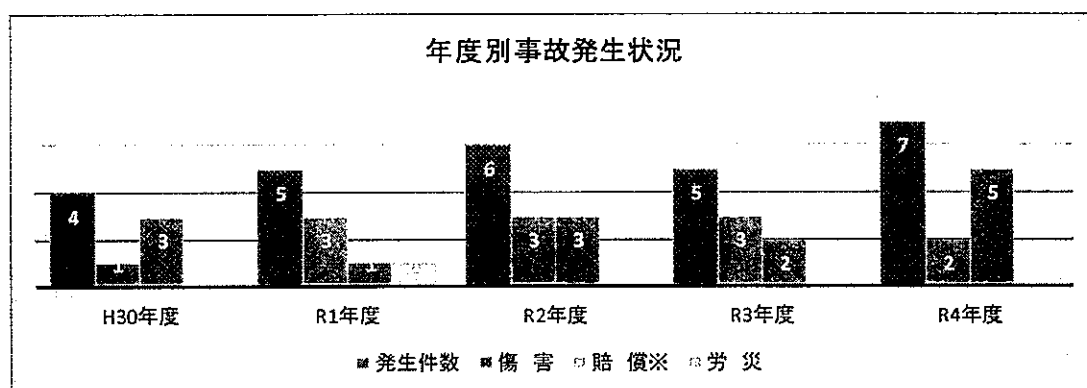
< 賠償事故の発生状況 >

業種	発生日	内 容	保険適用
芝刈り	R 4. 5. 19	乗用芝刈り機で作業中、グラウンドに設置してあった巻き尺を巻き込み切断した。	無
草刈	R 4. 9. 29	刈払機で作業中、飛石で隣接する民家の窓ガラスを破損させた。（民家との境界にはブロック塀があったため、防護対策はしていなかったがその塀を越えた。）	有
障子・襖	R 4. 11. 21	発注者宅で欄間を設置する際、足を掛けていたソファがずれ、そこに立掛けていた雪見障子のガラスと床面を破損させた。	有
草刈	R 4. 12. 10	除草作業終了後、現場から車両を後退させていたところ、後方から来た車両と接触、相手方車両の左前方部分を破損させ、また相手方運転手に右腕打撲による負傷を負わせた。	有 (自動車保険)
障子・襖	R 5. 3. 8	発注者宅に引き取りに行った際、ガラス障子のガラスがずれ落ち破損させた。	無

< 年度別事故件数の推移 >

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
発生件数	4	5	6	5	7
傷 害	1	3	3	3	2
賠 償※	3	1	3	2	5
労 災		1			

※R3年度までは、保険適用分で連合への報告分のみを計上



(5) 持続可能な組織運営・財政基盤の確立

新型コロナウイルス感染症の拡大や諸物価高騰等の影響による受注の減少を考慮し、事務経費の節減に努めたほか、増加し続ける経常経費の財源を確保するため、事務費率を改定し、次年度以降の受取事務費の増収を図った。

【主な取り組み】

- 事務費率の改定に伴う次年度以降の受取事務費の増収（12月）
- 事務経費等の節減（通年）

(6) 地域貢献活動

受診、検診、あるいは新型コロナのワクチン接種など、常日頃からお世話になっている済生会境港総合病院の皆様には感謝の意を込めて除草、清掃によるボランティア活動を境港市ことぶきクラブと合同で行った。

【主な取り組み】

- 済生会境港総合病院での除草、清掃作業（11月）